

科 目 名	担 当 者		担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
声優実技研究Ⅰ	小松野 希海 他		単独	3 単位	未来創造学科 1 年次	前期	※				A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画										
声優に必要な身体づくり、呼吸法、発声法、身体表現について実践的に学び、自らの声と身体を研究する中で、演技者としての基礎となる力を養う。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
	1	オリエンテーション	シラバスを確認する	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	9	・身体表現①（『身体の動きの幅（大小、高低）』について研究する） ・演劇作品創作⑧	授業や日常での気づきを通して、声や身体を研究する	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備			
	2	・演技者としての身体づくり①（『身体』について研究する） ・演劇作品創作①	教科書（上）の第1章、教科書（下）の第5章を読む。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	10	・身体表現②（『身体の動きの緩急（動止、遅速）』について研究する） ・演劇作品創作⑨	授業や日常での気づきを通して、声や身体を研究する	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備			
	3	・演技者としての身体づくり②（『呼吸』について研究する） ・演劇作品創作②	教科書（上）の第2章、教科書（下）の第6章を読む。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	11	・身体表現③（『身体の動きと感情・呼吸の関係』について研究する） ・演劇作品創作⑩	授業や日常での気づきを通して、声や身体を研究する	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備			
	4	・演技者としての身体づくり③（『姿勢』について研究する） ・演劇作品創作③	教科書（上）の第3章～第4章を読む	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	12	・身体表現④（『表情』について研究する） ・演劇作品創作⑪	授業や日常での気づきを通して、声や身体を研究する	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備			
授業の概要											
加瀬玲子先生の加瀬メソッドを参考に演技の基礎となる発声のための姿勢づくり、筋力づくり、呼吸法、発声練習、身体表現を通して、演技者としての基礎力を身につける。基礎力を養うための実践として、演劇作品を創作する。	5	・演技者としての身体づくり④（身体を使った『声のコントロール』について研究する） ・演劇作品創作④	教科書（上）の第5章～第6章を読む。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	13	・身体表現⑤（『声、身体のパクトル』について研究する） ・演劇作品創作⑫	授業や日常での気づきを通して、声や身体を研究する	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備			
	6	・演技者としての身体づくり⑤（『発声に必要な筋力』について研究する） ・演劇作品創作⑤	教科書（上）の第7章を読む。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	14	演劇作品創作仕上げ	授業や日常での気づきを通して、声や身体を研究する	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備			
	7	・演技者としての身体づくり⑥（『いろんな姿勢での発声』について研究する） ・演劇作品創作⑥	教科書（上）の第8章～第9章を読む。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	15	演劇作品発表	授業や日常での気づきを通して、声や身体を研究する	発表を経て、気づいたことをレポートにまとめる			
	8	・演技者としての身体づくり⑦（『身体のかえ』について研究する） ・演劇作品創作⑦	教科書（下）の第7章を読む。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	備考 ※声優コース必修						
教科書・テキスト等	ヴォイステクニクの真実基礎編（上）呼吸・発声（オーム社）、 ヴォイステクニクの真実基礎編（下）滑舌・ストレッチ（オーム社）			成績評価基準	評価方法		割合（％）	評価のポイント			
					平常点	40%	出席、課題への積極的な取り組み				
					発表	40%	課題から学んだことを活かし発表する				
参考書・参考資料等				レポート	20%	発表から演技者として必要なものを考察する					

科 目 名	担 当 者		担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
声優実技研究Ⅱ	小松野 希海 他		単独	3単位	未来創造学科 1年次	後期	※				A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標		授 業 計 画									
声優に必要な身体づくり、呼吸法、発声法、身体表現について実践的に学び、自らの声と身体を研究する中で、演技者としての基礎となる力を養う。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修			
	1	オリエンテーション	シラバスを確認する	授業で学んだ内容を復習、基礎練習	9	・演技基礎⑨（ベラ・レーヌ・システムを参考に、『心の中で思いつく演技』について実践的に研究する） ・演劇作品創作⑨	教科書のp.121～p.127を読む。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備			
	2	・演技基礎①（ベラ・レーヌ・システムを参考に、『インナーモノログ（心の中のセリフ）』について実践的に研究する） ・演劇作品創作①	教科書のp.25～p.32を読む。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	10	・演技基礎⑩（ベラ・レーヌ・システムを参考に、『他者と共通する演技』について実践的に研究する） ・演劇作品創作⑩	教科書のp.129～p.134を読む。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備			
	3	・演技基礎②（ベラ・レーヌ・システムを参考に、『五感を使った演技』について実践的に研究する） ・演劇作品創作②	教科書のp.33～p.53を読む。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	11	・演技基礎⑪（ベラ・レーヌ・システムを参考に、『指先の練習』について実践的に研究する） ・演劇作品創作⑪	教科書のp.141～p.146を読む。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備			
	4	・演技基礎③（ベラ・レーヌ・システムを参考に、『二義的動作による演技』について実践的に研究する） ・演劇作品創作③	教科書のp.55～p.68を読む。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	12	・演技基礎⑫（ベラ・レーヌ・システムを参考に、『想像力』について実践的に研究する） ・演劇作品創作⑫	教科書のp.147～p.155を読む。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備			
	5	・演技基礎④（ベラ・レーヌ・システムを参考に、『セリフの方向性』について実践的に研究する） ・演劇作品創作⑤	教科書のp.69～p.95を読む。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	13	・演劇作品創作⑬	授業や日常での気づきを通して、声や身体を研究する	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備			
	6	・演技基礎⑥（ベラ・レーヌ・システムを参考に、『気分の変化による演技』について実践的に研究する） ・演劇作品創作⑥	教科書のp.97～p.102を読む。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	14	演劇作品創作仕上げ	授業や日常での気づきを通して、声や身体を研究する	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備			
	7	・演技基礎⑦（ベラ・レーヌ・システムを参考に、『意味のないセリフによる演技』について実践的に研究する） ・演劇作品創作⑦	教科書のp.103～110を読む。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	15	演劇作品発表	授業や日常での気づきを通して、声や身体を研究する	発表を経て、気づいたことをレポートにまとめる			
	8	・演技基礎⑧（ベラ・レーヌ・システムを参考に、『感情が高まっていく演技』について実践的に研究する） ・演劇作品創作⑧	教科書のp.111～p.119を読む。	授業で学んだ内容を復習、基礎練習、作品創作準備	備考 ※声優コース必修						
授業の概要											
ベラ・レーヌ・システムを参考に、インナーモノログ、五感を使った演技、二義動作による演技、セリフの方向性、気分の変化による演技、意味のないセリフによる演技、感情の高まり、思いつく演技、他者と共通する演技、指先の練習、想像力などについて研究し、演技の基礎となる力を養う。演技の基礎力を築いていくための実践として、演劇作品を創作する。											
教科書・テキスト等	ベラ・レーヌ・システム(春風社)			成績評価基準	評価方法		割合(%)	評価のポイント			
					平常点		40%	出席、課題への積極的な取り組み			
					発表		40%	課題から学んだことを活かし発表する			
参考書・参考資料等	適宜、必要な資料を配布				レポート		20%	発表から演技者として必要なものを考察する			

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
ボーカル実技Ⅰ	柴田 英次・小松野 希海	単独	2単位	未来創造学科 1年次	前期	※				A B C D E F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
歌唱における発声の基本を学びながら、ポップス、映画の劇中歌、ロックなどの様々なジャンルの歌を、ソロボーカルで歌うことができるようになる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション（声の響き、リズム、呼吸、声帯のコントロールについて）	シラバスを読む	課題曲の練習	9	発声基礎練習、課題曲のソロ歌唱（課題：映画の劇中歌②）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習		
	2	発声基礎練習、課題曲のソロ歌唱（課題：ポップス①）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習	10	発声基礎練習、課題曲のソロ歌唱（課題：映画の劇中歌③）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習		
	3	発声基礎練習、課題曲のソロ歌唱（課題：ポップス②）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習	11	発声基礎練習、課題曲のソロ歌唱（課題：ロック①）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習		
	4	発声基礎練習、課題曲のソロ歌唱（課題：ポップス③）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習	12	発声基礎練習、課題曲のソロ歌唱（課題：ロック②）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習		
授業の概要										
腹式呼吸、呼吸のコントロール、声の響き（共鳴）、声帯のコントロールなどについて学ぶ。様々なジャンルの歌に挑戦することで、表現力豊かに歌う力を身につける。	5	発声練習、課題曲のソロ歌唱（課題：ポップス④）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習	13	発声基礎練習、課題曲のソロ歌唱（課題：ロック③）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習		
	6	発声練習、課題曲のソロ歌唱（課題：ポップス⑤）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習	14	発声基礎練習、課題曲のソロ歌唱（課題：選択曲）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習		
	7	発声練習、課題曲のソロ歌唱（課題：ポップス⑥）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習	15	まとめ（課題曲のソロ歌唱による試験）	試験で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習		
	8	発声基礎練習、課題曲のソロ歌唱（課題：映画の劇中歌①）	授業で歌唱する課題曲の練習	発声練習、授業で歌唱した課題曲の練習	備考 ※声優コース必修					
教科書・テキスト等	プリント配布			成績 評価 基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
				平常点		30%	出席、課題への積極的な取り組み			
				課題発表		30%	授業を通して学んだことを活かし発表する			
参考書・参考資料等				試験		40%	全授業を通して学んだことを活かし発表する			

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
ダンス実技Ⅰ	長江 美佳	単独	1単位	未来創造学科 1年次	前期	※				A D
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
体幹・体力づくり バレエ・ジャズダンスの基礎を学ぶ	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	オリエンテーション ①アイソレーション、ストレッチ			9	①+②+③+④ ④基礎の応用				
	2	①+ ②体幹トレーニング、筋トレ・呼吸			10	①+②+③+④				
	3	①+②			11	①+②+③+④				
	4	①+②			12	①+②+③+④				
授業の概要										
自分自身の体を知り、ダンスを通して表現する力を広げる	5	①+②+ ③バレエ・ジャズダンス基礎			13	①+②+③+④				
	6	①+②+③			14	①+②+③+④				
	7	①+②+③			15	まとめ、発表				
	8	①+②+③			備考 ※声優コース必修					
教科書・テキスト等				成績 評価 基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント			
					まとめ・発表	50%	学んだ成果を十分に発揮しているか			
参考書・参考資料等					平常点（態度）	50%	意欲的に練習に取り組んでいるか			

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
音声学Ⅰ	大塚 裕一	複数	1単位	未来創造学科 1年次	後期	※				A B C F
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
日本語の音声がどのような仕組みで発せられているのか正しく理解し、さらにはその発声方法などを学び、音声についての基本的知識を身につける。基本的知識を得られた後に、自身や他者の発音についてその特徴を正確に捉えるための技術を身につけ、国際音声記号を用いて様々な音声を記述できる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	音声学とは？ ～音声を扱う分野と音声学に含まれる分野～	音声学という学問について調べておく	配布物（音声学）の理解をする	9					
	2	発声の仕組み ～発声のメカニズムと関連する器官～	発声の仕組みを事前に調べておく	配布物（発声の仕組み）の理解をする	10					
	3	母音の構音 ～日本語の「あ・い・う・え・お」の違い～	母音の出し方を事前に調べておく	配布物（母音の構音）の理解をする	11					
	4	子音の構音① ～子音の分類とその基準～	子音の種類を事前に調べておく	配布物（子音の構音①）の理解をする	12					
授業の概要										
我々は日常生活で普段意識することなくコミュニケーションの活動の中心として音声を使って自分の考えや思いを他者に伝えています。しかしそれがどのような仕組みで生み出されているのかほとんど考えたことがないと思います。この講義では、音声を使って自分の考えや思いを発する、いわゆる話すという行為がどのように生み出され、どのように伝わるのかを考えていきます。声優としての基本的知識として必要になる人間の発声メカニズムを学びます。	5	子音の構音② ～様々な子音の特徴～	子音の発声の仕方を事前に調べておく	配布物（子音の構音②）の理解をする	13					
	6	母音と子音を見る ～音声を見る!?, サウンドスペクトログラム～	サウンドスペクトログラムについて調べておく	配布物（母音と子音を見る）の理解をする	14					
	7	音のまとまりと規則性 ～音楽と音声、音節とモーラ、調音結合を知る～	それぞれの用語の定義を調べておく	配布物（音のまとまりと規則性）の理解をする	15					
	8	韻律 ～アクセント、イントネーション、強調を知る～	韻律とはどのようなものか調べておく	配布物（韻律）の理解をする	備考 ※声優コース必修					
教科書・テキスト等	なし	成績 評価 基準			評価方法		割合(%)	評価のポイント		
参考書・参考資料等	なし、資料配布				筆記試験		100%	内容の理解		

科 目 名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
音声学Ⅱ	近藤 隆幸	単独	1単位	未来創造学科 1年次	後期	※				A
授業のテーマ及び到達目標	授 業 計 画									
音声で表現する活動に携わる者として 良い発音および良い声を自己の意識で コントロールできるように導く。 意識的に細かいコントロールができる ようになるためには、細かな差異を自 覚、理解、分析して説明できることが 必要。そのため、姿勢ごとの発声や発 音の変化に対して気づきを促し、自身 や他人の声を聴いて良し悪しを判断で きるよう、聴く耳を育てる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修		
	1	自己の声の分析と他者への説明。音声学Ⅰで の学びと気づきをヒアリングし、現状を自覚 するため教科書の短文ナレーション音読。	音声学Ⅰの復習	理解点と疑問点 の整理	9					
	2	腹式呼吸の理解度を確認。各々の理解に基づ き、良い腹式発声を意識して音読し、姿勢の 影響について学ぶ。	音声学Ⅰにおいて学 んだ腹式呼吸の仕組 みを再確認	日常生活の中の姿勢 を確認、意識する。 。	10					
	3	母音練習テキストを用いて響きの調整 声優養成スクールPineS教科書P21～22のテキ スト使用。	教科書の下読み、漢 字の読み方など確認	繰り返し音読する ことで、響きを均 一にする意識づけ	11					
	4	子音含めた、か行、さ行、た行、な行の発音 確認と響きの調整。 声優養成スクールPineS教科書P22～23	教科書の下読み、漢 字の読み方など確認	繰り返し音読する ことで、響きを均 一にする意識づけ	12					
授業の概要	5	子音含めた、は行、ま行、や行、ら行、わ行 の発音確認と響きの調整。 声優養成スクールPineS教科書P22～23	教科書の下読み、漢 字の読み方など確認	繰り返し音読する ことで、響きを均 一にする意識づけ	13					
音声学Ⅰで学んだ発声や発音の理解度 を確認し、各自の体格や姿勢に合わせ て補足解説。五十音が等しくきれいに 発音できる状態を維持し、その上で他 者に聴かせる意識を持たせながら、朗 読やナレーションの基礎に触れてもら う。	6	前回までの発声発音を維持し、朗読を通じて 表現に昇華していく意識づけ。共演者の音を 聴く意識づけ。	葉っぱのフレディを 下読み確認	修正点をブラッ シュアップして原 稿を反復練習	14					
	7	同課題の後半部分を朗読者として作り込ん でいく中、共演者の表現や声を聴く事にも注力 する。	自己の表現欲求と課 題テキストのすりあ わせ	修正点をブラッ シュアップして原 稿を反復練習	15					
	8	課題原稿を全員で音読発表。 初回に音読した短文ナレーションも再度音読 し、成長点や違いを自己分析する。	6回と7回の復習と 反復練習	様々な教材や原稿 で、学んだ点を意 識して音読	備考 ※声優コース必修					
教科書・テキスト等	声優養成スクールPineS教科書(株式会社S)、 葉っぱのフレディーいのちの旅(童話屋)			成 績 評 価 基 準	評価方法		割合(%)	評価のポイント		
参考書・参考資料等					理解度、学習態度 実技 成長曲線		30% 30% 40%	音の違いを聴覚理解する姿勢 音読の完成度 初回時との理解力や発信力の差		